

第6回
姉妹自治体交流表彰
(総務大臣賞)

受賞団体事例紹介

平成24年6月1日
総務省
財団法人自治体国際化協会

姉妹自治体交流表彰の概要

1 事業の目的

本表彰事業は、日本の自治体と海外の自治体との姉妹自治体提携に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富み、地域の振興に資するような取組を行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、姉妹自治体交流の更なる活性化を図り、もって、地域の国際化に資することを目的に、平成18年度から毎年度実施しております。

2 主催

総務省、財団法人自治体国際化協会

3 表彰対象

先進性や独自性、継続性、活発性、協働性、成果等の面から優れた姉妹自治体交流の取組を行っている、都道府県、政令指定都市、その他の市区町村、地域国際化協会、国際交流協会等の民間非営利団体を対象とします。

4 賞の内容

- ・総務大臣賞 3団体以内
- ・今回より新たに、東日本大震災への対応において特に表彰に値する団体

5 応募・審査

応募があった団体について、別途設置している「姉妹自治体交流表彰審査委員会」（委員長：中邨章 明治大学政治経済学部名誉教授）における審査を経て、総務省及び財団法人自治体国際化協会が受賞団体を決定します。

⇒第6回表彰事業では、総務大臣賞は24団体から（東日本大震災対応部門は9団体）応募があり、厳正な審査の結果、以下の3団体に決定しました。

【総務大臣賞】 横須賀市

【総務大臣賞（東日本大震災対応部門）】 釜石市、竹田市

6 その他

次回第7回の表彰は、平成24年夏以降に各自治体（国際交流担当課）を通じて募集する予定です。詳細は、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

財団法人自治体国際化協会 交流支援部交流親善課

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目7番 相互半蔵門ビル6階

電話：03-5213-1723 FAX：03-5213-1742 E-mail:shimai@clair.or.jp

URL <http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/hyoushou.html>

👑 総務大臣賞 👑

横須賀市	提携先	提携年月日
	① コーパスクリスティ(アメリカ)	1962年 10月 18日
	② ブレスト(フランス)	1970年 11月 26日
	③ フリマントル(オーストラリア)	1979年 4月 25日
	④ メッドウェイ(イギリス)	1998年 8月 26日

姉妹都市交換学生事業を活用したフェアトレードの推進

地域の概要	交流事業の概要
-------	---------



横須賀市

◇人口：413,401人 (H24.4.1)
 ◇面積：100.71km²
 ◇概要：三方を海に囲まれ江戸時代から国防の拠点とされた。江戸幕府の命による横須賀製鉄所の建設から海軍と深く関係し、その後も軍港都市として栄え、現在も自衛隊と米海軍の基地が置かれている。三浦按針の領地、ペリー来航、咸臨丸出港など国際交流の歴史を刻む。2001年4月に中核市となる。



姉妹友好都市

人口	面積
①285,000人 (2010年)	1,192km ²
②147,000人 (2010年)	50km ²
③ 25,000人 (2010年)	19 km ²
④254,000人 (2010年)	192km ²

- 横須賀市は、市主催式典・イベントの広報・啓発活動と姉妹都市交換学生事業を活用した研究活動を通してフェアトレードの啓発を推進しています。
- フェアトレードは「公正貿易」と訳され、途上国で生産される製品を適正な価格で購入して途上国内の雇用の確保と生産者の生活安定を促し、技術力向上と経済的自立を進める活動です。
- フェアトレードの啓発は国際式典事業に加え、姉妹都市交換学生事業を含む都市間交流事業でも取組を始めました。
- この交換学生事業は、高校生を姉妹都市に派遣し多文化共生を体験させることを目的としたもので、平成23年度はフェアトレードを全体テーマに位置づけました。
- 学生たちは派遣準備研修、事前・現地・事後調査を通じてフェアトレードの意義を学び、横須賀市と各姉妹都市の市民意識等の比較を行いました。
- 受入学生にも母国のフェアトレードについて調査を依頼し、来日後、派遣学生とともに国際ユースフォーラムで各国のフェアトレードの現状を発表してもらいました。
- こうした若い発信力を活用した、姉妹都市ネットワークを拠点として、今後もフェアトレードの啓発を発信し、世界レベルの国際協力、環境保護、平和思想を推進しています。

評価のポイント

- ⇒ フェアトレードという比較的難しい内容をテーマに姉妹都市交流を取り組んでいる点。
- ⇒ フェアトレード啓発の推進を国際化推進事業としたことに加え、その国際化事業と姉妹都市交流を結びつけることによって、国際化施策を総合的に展開している点。
- ⇒ 高校生を対象にした国際人育成のプログラムが少ない中、高校生派遣の研究カリキュラムもしっかりと取り組まれている点。
- ⇒ またその取り組み自体も学生を主体に進められており、単なる海外派遣にとどまらず、国際問題・国際協力について考えさせるいい機会になっており、将来性が感じられる。



横須賀市を代表する 8 名の「熱い」高校生たち
(平成 23 年度姉妹都市派遣学生)



国際ユースフォーラム会場のフェアトレード説明
パネルと姉妹都市派遣学生



国際ユースフォーラムで姉妹都市派遣学生の
相互の意見交換と交流活動



派遣先の英国メッドウェイ市でフェアトレード製品
の調査を行う交換学生



派遣準備研修でフェアトレードに対する理解を
深める



地元放送局で来日した姉妹都市の学生とともに
PR 活動を行う

【問い合わせ先】

神奈川県横須賀市政策推進部国際交流課

住所：〒238-8550 神奈川県横須賀市小川町 11 番地

電話：046-822-8138 FAX：046-827-8878

E-mail：ir-mo@city.yokosuka.kanagawa.jp

URL：http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/0140/index.html

総務大臣賞(東日本大震災対応部門)

釜石市

提携先ディーニュ・レ・バン市
(フランス共和国)

提携年月日:1994年4月20日



「アンモナイト」が結んだ絆 ～フランス姉妹都市からの震災支援～

地域の概要

釜石市



◇人口:39,464人(H23.3.31)

◇面積:441.43km²

◇概要:岩手県の南東部、陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置しています。気候は、三陸沿岸に位置しているため、海洋の影響と地理的条件から四季を通じて温暖です。
わが国近代製鉄発祥の地として、また、三陸漁場の中心港として、「鉄と魚のまち」として発展してきました。

ディーニュ・レ・バン市



◇人口:17,455人

◇面積:117.07km²

◇概要:フランスの南東に位置し、アルプス山脈の麓にあるまちです。伝統的な産業は農業ですが、アルプ・ド・オートプロヴァンス県の県庁所在地ということで行政に支えられた町です。周辺は自然保護地域に指定され、姉妹都市の架け橋となった「アンモナイトの壁」など、地質学上貴重な遺産が数多く残されています。

交流事業の概要

●1992年に釜石市で開催された「三陸・海の博覧会」において、ディーニュ市にある「アンモナイトの壁」のレプリカが、博覧会のシンボルとして、ディーニュ市等のフランス技術団の協力により製作されたことが交流の契機となっています。

その後、このレプリカは、釜石市の観光施設「鉄の歴史館」に保存されることになり、ディーニュ市との姉妹都市交流が始まりました。

姉妹都市締結後は市民訪問団の派遣、児童の絵画交流等、活発な交流を行っていましたが、少しずつ交流が停滞し、近年は交流が途絶えていました。

●東日本大震災により、釜石市は、死者・行方不明者1,046人、被災家屋4,614戸、最大避難者9,883人の被害を受けました。

その中で、2011年7月下旬に、ディーニュ市から犠牲者に対し全市民を挙げて黙祷を捧げたこと、市内のイベントで釜石応援ブースを設置し義援金を募っていること等、たくさんの支援内容と想いが伝えられました。

それに対し、同年8月には、両市長の電話会談を行い、支援に対する感謝を伝え、さらに、NPO法人国境なき子どもたちの協力により釜石市の中学生のディーニュ市訪問が実現し、あらためてお互いの強い絆を確認しました。

その後もディーニュ市から応援絵画が届き、釜石市民の「ありがとう」のメッセージを伝える等、活発な交流が続いています。

評価のポイント

- ⇒ 表面的には途絶えていた交流が実は底流では生きていて、震災を契機に復活し、物的・人的支援を通して交流が広がることになった点は、姉妹交流が利害関係とは関係なく結ばれている絆を再認識するものであり、姉妹都市交流の模範を示すものである。
- ⇒ 小中学校レベルでの交流に特色があり、震災を契機としてより連携の絆が強まっている点。
- ⇒ 震災復興計画に子供達を参加させるなど、手作り感あふれる取組を展開している点。



ディーニュ市からの義援金を受け取る
在マルセイユ総領事館の長澤首席領事



ディーニュ市長に被災状況を伝える釜石市の
中学生



アンモナイトの壁とディーニュ市に招待さ
れた在仏邦人



ディーニュ市を始めフランスから届けられ
た応援メッセージ



釜石市民からディーニュ市に届けた「あり
がとう」のメッセージ



姉妹都市が縁で支援をいただき復旧した
釜石市のコミュニティー施設

【問い合わせ先】

岩手県釜石市 総務企画部 総務課 国際交流室

住所：〒026-8686 岩手県釜石市只越町3丁目9番13号

電話：0193-22-2111（内線113） FAX：0193-22-2686

E-mail:soumu @city.kamaishi.iwate.jp

URL： <http://www.city.kamaishi.iwate.jp/index.cfm/10,3107,76,305,html>

総務大臣賞(東日本大震災対応部門)

竹田市

提携先: パートクロツインゲン市
(ドイツ連邦共和国)



提携年月日: 2004年10月17日

草の根交流から生まれた東日本大震災への支援

地域の概要

竹田市



◇人口: 24,623人 (H24.3.31)
◇面積: 477.67k㎡
◇概要: 大分県西部、熊本県境に位置。「荒城の月」を作曲した瀧廉太郎が幼少期を過ごし、石垣のみ残る「岡城跡」が作品に影響を与えたと言われる。雄大な久住高原、日本一の炭酸泉長湯温泉などの観光資源を生かし、農村回帰宣言市を全国に先駆け標榜。あわせて現在、全国初の試み、温泉療養保健制度に取り組んでいる

パートクロツインゲン市



◇人口: 17,063人
◇面積: 35.66k㎡
◇概要: ドイツ最南西端、フランス・スイスとの国境地域に位置。世界的に有名な黒い森(シュヴァルツヴァルト)に囲まれた温泉保養地。温暖な気候とライン川沿いの牧歌的田園風景は、地中海の風景をほうふつさせる。竹田市の温泉施設「御前湯」と姉妹施設提携を結ぶ「ヴィタ・クラシカ」には日本庭園や日本家屋の休憩所が並ぶ。

交流事業の概要

- 炭酸泉を活用した温泉療養をまちづくりに生かすため、竹田市(旧直入町)視察団が、その先進地パートクロツインゲン市を訪れた1989年に両市の交流は端を発する。その交流は中学生の相互ホームステイ交流やコーラスグループの相互派遣などの文化的側面のみならず、パート市で製造されたドイツワインの限定販売、竹田市内でのホワイトアスパラガスの生産などの経済面にまで裾野を広げ、2004年正式に姉妹都市締結を行った。
- この間、両市の温泉施設が国際姉妹施設提携を結ぶ等、交流は更に進化し、2009年10月には竹田市で交流20周年記念事業を開催している。
- 3月11日に発生した東日本大震災へのパート市の対応は素早かった。「荒城の月」を縁とした竹田市の音楽姉妹都市仙台市のために、3月22日に募金活動を開始、パート市近郊に在住の日本人音大生などが開催したチャリティーコンサートの収益金もあわせ、最終的に400万円を超える義援金が仙台市へ送られた。また、竹田市に勤務する国際交流員の出身地、東独タバルト市のボランティア団体が、復興を願う絵画や折鶴を作り、竹田市長の手によって直接仙台市長に届けられた。
- 継続的な交流が国境を越えた支援につながり、両市の信頼関係は更に強まった。未来志向の交流は他自治体をも巻き込み、更なる発展と進化が期待されている。

評価のポイント

- ⇒ 直接被災していない自治体が、震災を契機にこれまで培ってきた交流基盤を基に被災地である国内姉妹都市と海外姉妹都市の橋渡し役を通して、自身の交流のひろがりにもつながった特徴的な事例。
- ⇒ 海外の姉妹都市間と、国内の友好提携が活かされた仕組みになった点が今後、他の自治体の範となる。
- ⇒ また、本来の交流(温泉を縁に長年交流してきたという点)も活発でありユニークである。



折鶴と絵画を仙台市長へ



竹田市で限定販売しているドイツワイン



1000 ユーロを募金したバート市の営業組合



ヴィタ・クラシカ(バート市のスパリゾート施設)にある日本建築の休憩所



5月29日に行われたチャリティーコンサート



バート市から竹田市へブドウ畑が贈呈

【問い合わせ先】

竹田市総務課秘書広報係

住所：〒878-8555 大分県竹田市大字会々1650番地

電話：0974-63-1043 FAX：0974-63-0995

E-mail：soumu@city.taketa.lg.jp

URL：http://www.city.taketa.oita.jp/

